

令和3年度

佐伯区社会福祉協議会

# 賛助会員を募集しています!

佐伯区社会福祉協議会では、「すべての人に居場所や役割があり、多様性を認め合い、支え合いのあるまちをつくらう」をスローガンに、高齢者・障がい者・児童等が安心して暮らせる「福祉のまちづくり」に取り組んでいます。

本会は、こうした趣旨にご賛同いただき、「賛助会員」としてご支援をくださる方を募集しています。地域の皆様方のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

賛助会員のお申込みをご希望の方は、本会へおいでいただくか、振込用紙(郵便局)がご入用の方は、お手数ですが本会までご連絡をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 賛助会費

- 個人1口/1,000円(年会費)
- 団体1口/5,000円(年会費)

### 問い合わせ

- 佐伯区社会福祉協議会(佐伯区役所別館5階)
- 電話(082)921-3113

ご協力ありがとうございました。 令和3年4月1日～令和3年7月31日の期間で、次の方々から賛助会員のお申込みをいただきました。

### 個人

68名  
136口

出本 保	中村 昂江	永田 章	石井 正義	久保田詳三	中野ちずみ	深川 悦子	廣山 行男	匿名(12名)
上土井 讓	中本 紀明	中本 雅策	北村 達也	大原 武久	石本瑠里子	前田 桂子	佐々木繁盛	
小山 廣道	平井 清司	増田 昭美	大石 玉子	平林 勝恵	本田 順子	古池 里司	三浦八千代	
佐々木 昇	細川 了	中本 緑	津丸 俊二	石田 教子	雨瀧 弘和	山根ミサ子	佐藤 誠	
満手 洋子	山本 章友	市川 久子	大形 則義	佐伯 和明	先本 民治	廣畑 村夫	松尾 敏子	
眞田 幹雄	金常 信	山脇 好得	原田 毅	藤田 和子	奥田 卓也	佐川智恵子	宮本 暁子	
石田 弘江	戸谷 恵一	横原由紀夫	津田 正明	山本 幸江	瀬戸 孝彦	日高 義幸	松村 千里	

### 団体

9団体  
9口

五日市東学区社会福祉協議会ボランティアバンク	五月が丘地区社会福祉協議会	(有)咲楽 代表取締役 後藤 博
河内地区民生委員児童委員協議会	石内慈光園	五日市中央地区社会福祉協議会
NPO法人障害者支援センター明星	美鈴が丘地区社会福祉協議会	五月が丘連合町内会

(敬称略、順不同)

## 多山報恩会様から助成金をいただきました!

去る令和3年5月20日、本会は多山報恩会様から、地域福祉推進のための多額の助成金をいただきました。この助成金は、ふれあい配食訪問事業にかかる費用に充当させていただき、地域での高齢者の見守り活動の強化に役立てます。多山報恩会様、今年もありがとうございました。

## 今年も、共同募金運動にご協力をお願いします!

昭和22年に始まり、今年で75回目を迎えた「赤い羽根共同募金運動」が、10月から実施されています。広島市佐伯区共同募金委員会では、「自分の町を良くするしくみ」をスローガンに、募金目標額10,405,000円の達成に向けて、募金活動を推進しています。

お寄せいただきました募金は、次のような活動に活用させていただきます。

皆様の温かいご支援、ご協力をお願いいたします。

- ふれあいいきいきサロン事業
- 近隣ミニネットワークづくり事業
- 地区ボランティアバンク事業
- ふれあい配食訪問事業



## 災害義援金のお礼

本会では、全国各地で起きた地震や豪雨災害に対する心温まる義援金を、多くの方々から頂戴いたしております。ここに、各義援金の募金実績(7月1日現在)をご報告いたしますとともに、厚くお礼を申し上げます。なお、この義援金は、それぞれの義援金配分委員会を通じて、被災者に配分されます。

◆平成30年7月 広島県大雨災害義援金	4,129,507円	(平成30年7月12日～ 令和4年6月30日)
◆令和3年2月 福島県沖地震災害義援金	10,000円	(令和3年2月24日～ 令和3年5月31日)
◆令和3年 島根県松江市大規模火災義援金	10,000円	(令和3年4月12日～ 令和3年5月31日)

( )内は、義援金受付期間

# ささえあい No.116

さえき社協だより  
ボランティアセンターだより

編集・発行: 令和3年(2021年)11月1日  
社会福祉法人「広島市佐伯区社会福祉協議会」

〒731-5135 広島市佐伯区海老園1-4-5  
佐伯区地域福祉センター(佐伯区役所別館)  
TEL (082)921-3113・FAX (082)924-2349  
E-mail: saeki@shakyohiroshima-city.or.jp

コロナ禍でも  
つながれます!!

## 八幡学区社会福祉協議会

八幡学区社会福祉協議会(以下、八幡学区社協)では、コロナ禍で様々な地域活動を行うことが難しい状況の中、昨年度からスマートフォンやタブレットを活用して会議を開催されています。そういったコロナ禍での新しい取り組みについて、八幡学区社協の役員さんにお話を伺いました。



八幡学区社協の増田会長(左)と  
武田地域福祉推進委員(右)

### Q1 スマートフォンやタブレットを活用して会議を開催しようと思ったきっかけは何ですか?

A1 新型コロナウイルス感染症の流行により、既存の活動がしにくい状況の中、タブレットを活用した会議・地域活動ができればいいと思っていたところ、タイミングよく広島市の新型コロナウイルス感染症の影響に対する地域福祉活動緊急支援事業の案内があったので、この補助金を申請し、タブレットを購入することができました。

### Q2 実際に活用されてみて、どのような成果がありましたか?

A2 今、広島市から貸与されたタブレットと補助金を活用して購入したタブレットを合わせると役員が1台タブレットを持っているので、会議の開催案内は「LINE」を利用して送付し、会議を「ZOOM」を活用して開催しています。「LINE」については、これを活用することで、非常にスムーズに連絡をとることができるようになった。「ZOOM」については、移動時間を短縮し、どこからでも会議に出席ができるため会議の出席率が向上した上、コロナ禍の中、密になることを避けることができています。夜の会議でも安心して出席できるという声もありました。また、欠席者への会議資料の個別配布を省略することもでき、ペーパーレス化を進めることもできました。大雨で警報が発出された時も、避難所の開設情報等の防災情報の取得に活用することもできました。

### Q3 今後の取り組みの展望について教えてください。

A3 今は通信のためポケットWi-Fiを個人契約し使用しています。これは1年間通信料無料であったので今は経費がかかりませんが、今後、通信料が発生します。また、広島市から貸与されているタブレットは、今は「ZOOM」の利用料、タブレットの通信料の負担がありませんが、次年度から負担が発生するため、今後、その費用の負担をどうしていくかが課題です。

しかし、使ってみた効果は高かったため、各地域団体での活用、オンラインサロンの実施、オンライン講演会など、どんどん活用できる場を広げていきたいと思っています。そのためには公民館等の公共施設でWi-Fi環境の整備が進めばと思っています。



## 令和2年度 事業報告

世界中で「新型コロナウイルス感染症」が発生し、短期間で日本中に広まりました。二度の緊急事態宣言や自粛生活の提唱などの対策が講じられていますが、今もなお猛威を振るい、感染拡大に歯止めがかからない状況が続いています。佐伯区地域福祉センターの休館も余儀なくされ、令和2年4月17日から令和2年5月17日までの間、更には、その前後での会合自粛期間を含め、会議そのものの開催が困難となり、書面による審議といたしました。

このような状況の中、新型コロナウイルス感染症の影響により多くの方が離職、廃業、休業など就労機会の減少による減収等で生活が困難となった方々への生活福祉資金特例貸付が全国で開始され、本会も、その窓口の機能を担い、世帯の生活再建のための相談援助に努めました。

地域福祉活動の推進にあたっては、新型コロナウイルス感染症の影響で開催件数は少いものとなりましたが、「新・福祉のまちづくり総合推進事業」の推進のため、各地(学)区社協の会議・研修会に区社協職員が参加し、情報提供や助言などの支援を行いました。

「介護予防・日常生活支援総合事業」の推進のため、生活支援コーディネーターが地域に出向き、地域住民による交流の場づくりや住民どうしの支えあいの取り組みづくりを支援しました。

また、法人運営に係る業務の集約により、地域に根ざした事業に力を集中し、住民主体による課題解決能力を強化することを目的として、法人統合の検討・協議を進めました。

この先、感染症の影響がどの程度続くのか、誰にも予測はできませんが、今後の業務推進にあたっては、感染防止と両立することが必要となります。「地域共生社会」の実現に向け、これまで築いてきたつながりが途切れることがないように、住民・各地区の地域団体、行政機関等と共に考え、共に推進して行きます。



## ＼1人でも!複数でも! / オンラインで観られる演芸ショー!!

コロナ禍で、いきいき・ふれあいサロンをはじめ、「集まる」活動に工夫が必要になっています。五日市学区社会福祉協議会と佐伯文化芸能振興会では、コロナ禍でも楽しめる演芸ショーをオンラインで配信されています!

本当は会場に集まって観たいけど・・・今は距離を保ちながら心は密に!! 笑顔あふれるオンライン演芸ショー、観てみませんか?



オンライン演芸ショー視聴の様子  
(佐伯区ボランティアセンターにて)

■内容:地域の芸達者なボランティアの皆さんによる舞踊・寸劇・歌・紙芝居など。

■今後の開催予定:11月1日(月)、12月6日(月)の13時30分～15時00分

※新型コロナウイルス感染拡大状況により、中止または変更の場合があります。

※ZOOMアプリを使った配信です。受信のためには、視聴のための機器(スマートフォン・タブレット・パソコン等)と、インターネット環境をご用意いただく必要があります。



## VR認知症体験会に参加して

7月8日(木)、高齢者の困りごと支援を目的としたグループ「和みの会」の主催でVR認知症体験会が開催されました。VR=バーチャル・リアリティー(仮想現実)とは、目にはゴーグルを、耳にはヘッドホンを装着し、画像と音で、現実に近い体験ができる、新しい取り組みです。



最初の(仮想)体験は、『視空間失認』という症状のある認知症の方が「送迎用の車から降りるとき」という場面です。車の外で、介護士の方が笑顔で手をさしのべているのですが、「私」は、周りを見ると高架線を走っている電車が見えたり、隣家の屋根が見えたりするので、「高い所にいる」と感じ、車から降りると落ちてしまいそうで体が動きません。これでは、いくら「大丈夫ですよ」と声掛けされても、耳に入りません。

2番目の体験は、『レビー小体型認知症』の幻視体験でした。自宅のリビングに座っている「私」の周りに、(飼っていない)犬が歩いていたり、知らない男の人が立っていたり、という体験でした。実際にこんなことが起こったら、悲鳴を上げたり、暴れたりしますよね。

3番目の体験は『見当識障害』の症状体験で、電車の中にいる「私」が降りる駅が分からなくなる、という設定でした。こういう場面にてあつたら、目的地を確認し、降りる駅まで案内することが大切だと学びました。

よく「相手の立場で考える」といいますが、ほとんどの場合、「相手の立場に立とうとしている自分の立場で考えている」ので、VR体験会は貴重な経験でした。VR体験会を企画された「和みの会」の皆さまにお礼申し上げます。

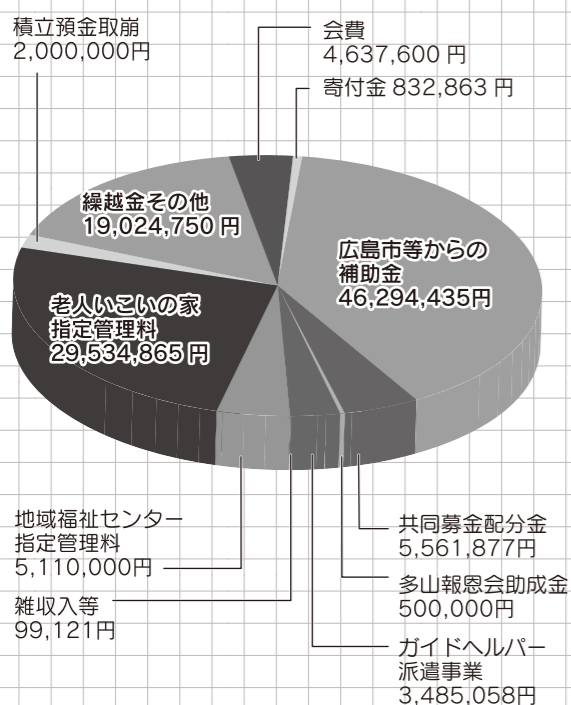
「きらり塾」(認知症によりそう会)の一会員より

## 令和2年度 佐伯区社協収支決算

自 令和2年4月1日  
至 令和3年3月31日

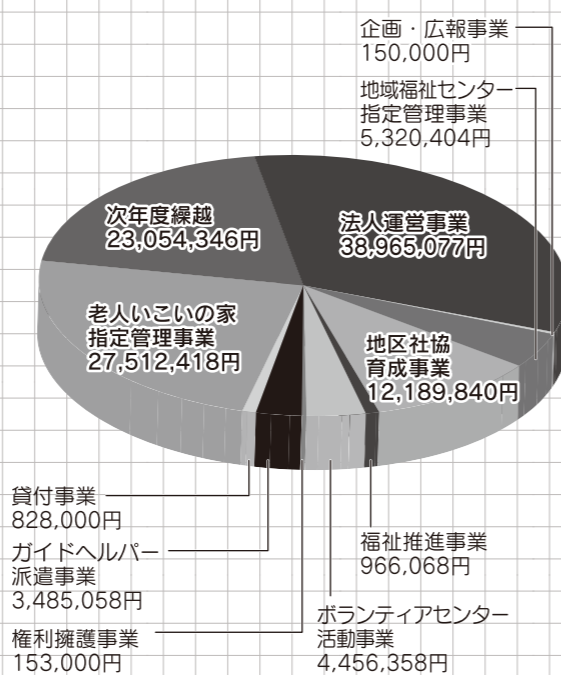
### 収入の部

合計117,080,569円



### 支出の部

合計117,080,569円



## “やるき・げんき・さえき祭り”中止のお知らせ

9月26日(日)に予定していた「やるき・げんき・さえき祭り」につきまして、新型コロナウイルス感染収束が不透明な状況で、参加者・運営者双方の安全・安心の確保が難しいと判断し、やむを得ず中止の決定をいたしました。

祭りを楽しみにされていた皆様には大変申し訳ございませんが、ご理解いただきますようお願いいたします。

来年こそは新型コロナウイルスの感染収束と皆様が安心・安全に楽しめる「やるき・げんき・さえき祭り」の開催を願っております。また、お会いできることを楽しみにしております。



問い合わせ

社会福祉法人 広島市佐伯区社会福祉協議会

電話: (082) 921-3113 FAX: (082) 924-2349